

場面	人権課題	差別と感じたこと（困ったこと）	差別となる行為	合理的配慮（調整・変更）
受験・入学	共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 被差別・社会的マイノリティ^{※1}（以下、「マイノリティ」とする）であることを理由に、受験や入園・入学を断られる恐れがあると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティであることを理由に、受験資格を与えないこと。 マイノリティであることを理由に、入園・入学を認めないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティ当事者が受験や入園・入学しやすい環境を整えておく。 学校のホームページや学校案内のパンフレット等で、差別をなくし人権を尊重する学校目標や運営が分かるように表示する。 進学時にセンシティブ情報を引き継ぐ場合は、本人や家族の同意を得て、本人の意思を確認しながらサポートする。
	LGBT ^{※2}	<ul style="list-style-type: none"> 入学手続き書類、受験用紙、学生証等に性別欄があることに戸惑った。（プレッシャーに感じた。） 学生証等で自認する性別に沿った呼称が表記されず、つらかった。 トランスジェンダー^{※3}当事者が、学校から本人希望の呼称ではなく、戸籍名を使うように求められた。 トランス女性の当事者が、戸籍が男性であることを理由に、学校から髪の毛の長さを男子学生の規定内に収めるように求められた。 望む性別で学校に通いたい旨を伝えると、性同一性障害の診断書の提出を求められた。 自認する性別と異なる制服の選択を強いられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自認する性別での受験や入学を認めないこと。 自認する性別での学生証を発行しないこと。 自認する性別ではなく戸籍上の性別で制服を強要すること。 誰でも使うことができるトイレがない等校内環境を理由に、トランスジェンダーやXジェンダー^{※4}の児童・生徒・学生の入学を断ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人が自認する性別で受験や入学ができるようにする。 男女別学校の受験で自認する性別での受験希望があれば、受験できるよう検討する。 受験や入学時の提出書類で、性別情報が不要な項目の性別欄を削除する。 受験者数や受験者名簿、合格者数や合格者名簿の男女別内訳の発表時、本人が自認する性別で名簿上扱う。 学生証や校内文書等で本人が希望する呼称を表記する。 本人が自認する性別での制服着用を認める。 服装・髪型等に関する規則で男女別の規定を定める場合は、合理的根拠を明確にするとともに、必要に応じて柔軟な対応を行う。
	外国人	<ul style="list-style-type: none"> 入園・入学時に元号表記があることが苦痛だった。 偏スをつける文化的習慣がある場合、偏スをはすすかどうか迷った。 民族名で入学しようかどうか迷った。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人であることを理由に受験の条件を不利にすること。 外国人であることを理由に入学を認めないこと。 外国人であることを理由に同等の就学権利を認めないこと。 本人の意思に反して、民族名より日本名での入学や登校を勧めること。 本人の意思に反して、ミドルネームを削り、日本の名前の部分だけを表記すること。（日系ブラジル人の事例：山田〇〇太郎の〇〇のミドルネームを切り取る） 	<ul style="list-style-type: none"> 元号表記が分かりにくかったり、抵抗を感じたりする場合は、西暦表記のみを選択できるように対応する。 母国の文化を尊重し、対応可能かを検討して、適切に対応する。 名前はとても重要であり、民族名を尊重する教育の推進を明確化し、保護者、児童・生徒に伝える。 外国人児童・生徒には就学通知が届かない^{※5}ので、教育を受けられるように就学案内を対象児童・生徒に届けられるようにし、不就学や不明児童・生徒を生まないよう、日本人児童・生徒同様、「教育を受ける権利」の保障としての受入意識が必要である。
	HIV陽性者 ^{※6}	<ul style="list-style-type: none"> 専門的な学校での入学時健康診断で、無断で抗体検査が実施されたり、あるいは強制的に検査を受けさせられたりして、HIV陽性が判明したら退学を迫られるのではないかと不安があった。 実習前の検査でHIV陽性が判明したら、不利益を被るのではないかと不安があった。 受診歴等の医療情報を知られ、合否に影響があるのではないかと不安があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 抗体検査を無断で、あるいは強制的に実施すること。 HIV陽性の判明により、入学を拒否すること。 医療情報からHIV陽性を知り、合否を判断したり、入学を取り消すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療情報を合否判定の判断材料にしない。 HIVについて正しい知識を得て、プライバシーと継続的な学習環境を保障する。 健康診断に際して個別の相談を受け付け、個別の対応を検討する。
	血友病 ^{※7}	<ul style="list-style-type: none"> 止血管理ができないと入園・入学を断られた。 一般の学級で生活できるのに、特別支援学級に入れられた。 事前に相談した際に、病名を聞いただけで否定的となり、拒否された。 特に小学校入学前の幼稚園・保育園等で入園を拒否されることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 血友病であることを理由に入園・入学を断ること。 意思に反して、特別支援学級に入学させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療情報を合否判定の判断材料にしない。 学校内で病態や止血管理の知識を共有する。 教員や保護者に対して、どのような配慮・対応が必要か、医療者から情報提供してもらう。
	見た目問題 ^{※8}	<ul style="list-style-type: none"> ＜アルビノ^{※9}＞ 髪の毛の色で入学可能かを判断された。 髪の毛を染めることを入学条件にされた。 地毛証明書の提出を求められるのが嫌だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜アルビノ＞ 髪の毛の色を理由に入学を断ること。 髪の毛を染めることを入学条件にすること。 地毛証明書の提出を求めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜アルビノ＞ 髪の毛の色等見た目での入学の可否を判断するのではなく、本人の学力や能力を判断基準とする。 様々な髪の毛の色等、多様な人がいることを学校内で周知する。
	部落問題	<ul style="list-style-type: none"> 友だちが被差別部落を校区に含む学校を避けて、他の学校に越境していたことを知って傷ついた。 入学時、部落問題を正しく理解している友だちや教員がいるかどうか不安だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 被差別部落やその人を避けるという理由で、他の学校に越境入学すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 公立の学校に進学する際は、定められた地域の学校に適正に入学するように指導する。
LGBT	共通事項	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティについて、正しく理解している教員や友だちがいるか不安だった。 	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティであることを理由に、人を傷つけたり、差別したりすること。 マイノリティ当事者がマイノリティであることにより、授業についていけないのに、適切な対応をしないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員間で必要な配慮事項を共有する等して、本人が安心して学校生活を送れるように環境を整える。 人権問題、特に在籍するマイノリティの人権課題について学習機会を設け、児童・生徒・学生、教職員の偏見を無くす取り組みを行う。 安心して学校生活が過ごせるように、学校便り等で正しい情報を発信する。 配慮が必要なときは、まずは本人のニーズを聞き、できるだけそのニーズに沿うために、どうしていいかを一緒に考える。 授業等でそれぞれのマイノリティに合わせた支援を行う等、学ぶ権利を損なわないような工夫を行う。 緊急対応マニュアル等に、マイノリティへの配慮を盛り込む。
	LGBT	<ul style="list-style-type: none"> ＜校則・学校生活＞ LGBTについて正しい知識を教えることができる教員がいるか不安だった。 友だちや教員から性的指向^{※10}や性自認^{※11}について、からかわれたり、差別的・否定的な発言をされたりして傷ついた。 テレビ出演する、いわゆる「オネエキャラ」を卑下したことに対し、直接卑下されているわけではないが、聴いてしんどかった。 学生証等で自認する性別に沿った呼称が表記されずつらかった。 自認する性別と異なる制服等（制服、体操服、帽子、水着、靴、上履き等）に困った。 身体測定で戸籍上の性別に分けられることがつらかった。 部活動が性別によって分けられていたため、希望する部活動に入部できなくてつらかった。 ＜授業関係＞ 保健体育の内容で、戸籍上の性別で分けられることが嫌だった。 保健体育等の男女別の授業で、希望する側に行けなくて困った。 性教育の授業で教員の伝え方や同級生の反応が気になったり、視線や話題が自分に向けられたりするのは不安かという不安があった。 性教育の授業で、異性愛や恋愛することが当たり前という前提があって不安だった。 ＜設備関係＞ 学校の男女トイレや更衣室で、性自認に基づく設備を使えなくて困った。また、誰でも使用可能な設備がなくて困った。 トイレに関する対応で「文科省マニュアル（通知）に沿った対応を取ったからこれで良いだろう」と言われてしんどかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜校則・学校生活＞ 性的指向や性自認について、からかわったり差別的・否定的な発言をしたりすること。 自認する性別での制服等（制服、体操服、帽子、水着、靴、上履き等）の着用を認めない。 ＜授業関係＞ 性別で授業内容が異なる場合、戸籍でなく自認する性別で授業に参加させない。 性教育の授業で、異性愛や恋愛することが当たり前という前提で授業を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜校則・学校生活＞ 学校の教育目標・方針として、学校のホームページや学校案内のパンフレットに、「性的指向・性自認による差別を許さない。」旨を明記し、取り組む。 教職員全員が性的指向や性自認に基づく差別・偏見に対応できるように研修を行う。 文科省マニュアル（通知）やこのガイドラインを参考にしても、まずは本人の声を大切にすること。 「ホモ」「レス」「おかま」等の差別用語や、セクシュアルマイノリティへの差別発言があった場合は、特定の人をからかった言葉でない場合でも、すぐに（可能ならその場で）学校全体で取り組み、児童・生徒全員への啓発学習を行う。 学生証等を本人が希望する呼称を表記できるようにする。 戸籍ではなく自認する性別で学校生活を送りたいという意思が示された場合は、性同一性障害の診断のあるなしに関わらず、本人の希望に沿って対応するよう取り組む。 自認する性別での制服等（制服、体操服、帽子、水着、靴、上履き等）の着用を認める。 身体測定を個別に実施する。 性自認に沿った性別指定の部活動に入部できるよう検討する。（性別指定のある大会等へ参加できるための調整等含む） ＜授業関係＞ 性別で授業内容が異なる場合、性自認に沿った授業を受けることを認める。（性別で分けることに合理的な理由がない場合は、全員で授業を受けるようにする。合理的な理由で難しい場合は、本人と相談して代替措置を行う。） 性別で課題が異なる場合、性別で課題を分ける合理的な理由がなければ同じ課題を課す。 水泳の授業で上半身が隠れる水着の着用を認める。 性教育の授業で、異性愛や恋愛することが当たり前という前提で授業を行わない。（もし教科書等で異性愛を前提としていたら、同性愛や恋愛をしないというセクシュアリティがあることを必ず伝える。） ＜設備関係＞ 性別問わず、誰でも使えるトイレや更衣室などの設備を整える。

場面	人権課題	差別と感じたこと（困ったこと）	差別となる行為	合理的配慮（調整・変更）
学校内	外国人	<ul style="list-style-type: none"> 日本語が分からない、発言がおかしいことを茶化された。 同級生ともめたとき、「〇〇（国名）帰れ」と発言された。 同級生から、「だから、〇〇（国名）は嫌いやねん」と言われた。 席替えした時に、「〇〇（国名）人の隣はいや」と言われた。 外国にルーツを持つ児童・生徒に対して「だから〇〇（国名）人は頭脳がない」、「〇〇（国名）人は爆買いするんだ」というヘイト発言があった。 同級生が民族名を名のる在日コリアンに対して、北朝鮮のミサイル問題が報道されるたびに、「〇〇（民族名）、お前行ってなんとかしてこい」と言われた。 民族名を茶化して、「キムチくさい」と言われた。 校内文書等で元号表記があることが苦痛だった。 日本語が分からないため、特別支援学級に入れられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で日本人のみを優越視し、外国人を劣るように教えること。 日本語が分からない、発言がおかしいことを茶化したり、バカにしたりすること。 児童・生徒の国籍あるいはルーツを持つ国に対して、偏見や差別的な発言をすること。 外国にルーツを持つ児童・生徒に対して、そのルーツの国に帰れと発言すること。 国家間やその国の問題であるにもかかわらず、その国にルーツを持つ児童・生徒に対して、あたかもその代表であるかのように発言すること。 民族名を茶化したり、もじったりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権問題、特に在校する外国人の人権課題について学習する機会を設け、児童・生徒・学生、教職員の偏見を無くす取り組みを行う。 外国人等多様性を尊重する視点で教育を行う。 外国人の置かれている法的地位や歴史的経過等を正しく教える。 日本以外の国をおとしめたりしない等、多様な外国人やルーツがある生徒を想定した授業を行う。 日本語が苦手な児童・生徒に理解できるように授業を行う。 日本語の配慮が必要な児童・生徒には、板書以外の教材（プリントや映像など）を活用しながら授業を行う。 日本語の配慮が必要な児童・生徒には、板書を写す時間と話を聞く時間を明確にしながら授業を行う。 外国人児童・生徒に支援教員を配置する。 元号表記が分かりにくかったり、抵抗を感じたりする場合は、西暦表記のみを選択できるように対応する。
	HIV陽性者	<ul style="list-style-type: none"> 教職員がHIVの感染経路や予防方法について正確な知識がないことで、感染不安を抱き、汚いもの扱いされているように感じる。 服薬しているところを見られて、偏見や差別を受けるのではないかと心配だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 病気に対する誤った知識や情報、偏見を発信すること。 正しい知識と予防方法に基づかない行為で、本人を避けること。学校教育を提供しないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権問題、特に在校するHIV陽性者の人権課題について学習する機会を設け、児童・生徒・学生、教職員の偏見を無くす取り組みを行う。 本人の体調に合わせた授業や学校生活を行えるようにする。
	血友病	<ul style="list-style-type: none"> 教員が不必要に病気を怖がった。 同じクラスの同級生に病名を伝えるかどうか迷った。 体育の授業で、体調の変化の波が大きく誤解されやすい。（昨日、元気でいても急に関節内出血で動けなくなる場合がある。） 90年代の副読本の内容では、死に至る内容となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ケガ（出欠）を恐れて、行事に参加させないこと。 病気等の体調の課題があるにもかかわらず、それを無視すること。 病気に対する誤った知識や偏見をそのまま教えること。 教員が患者を露骨に「生きた教材」と発言すること。（Aさんのことを知ること、血友病という病に対する知識・理解が進む。Aさんが教材なんだよ。） 	<ul style="list-style-type: none"> 血友病当事者の人権課題について、本人や保護者と相談し、慎重に準備を進めながら、学習する機会を設け、児童・生徒・学生、教職員の偏見を無くす取り組みを行う。 本人の体調に合わせた授業や学校生活を行えるようにする。 病気であることの周囲への告知は、学校の判断だけで行わず、本人と十分に相談する。 病態や症状、体調等には個人差があることを認識する。 病気等の体調の課題を本人の了承のもとに、教員や保育士などの間で共有する。 注射が必要になる等の緊急対応時、プライバシーを確保できる場所を用意する。
	見た目問題	<ul style="list-style-type: none"> 見た目の特徴を悪く言われたり、差別的な発言をされたりした。 <p><アルビノ></p> <ul style="list-style-type: none"> 弱視のため板書スピードについていけず、つらかった。 授業についていけないのに、「周囲を巻き込んでしまうのではないか」という遠慮から分かったフリをしてしまった。 授業についていけないことを教員に伝えると「あなたに合わせて授業を進めることはできない」と言われた。 弱視は認識されていたが、日焼け対策が必要なことまでは認識されていなかった。 弱視は一般的な視力検査で正確に測ることが難しいのに、一律の方法で他の児童・生徒と一緒に検査することに非常に抵抗があった。 「障がいがある分、がんばりなさい」という教員からのプレッシャーがひどくてつらかった。 <p><脱毛症></p> <ul style="list-style-type: none"> ウィッグの着用を認めない小学校があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日焼け対策やウィッグの着用等、必要な対策を理解しないこと。認めないこと。 <p><アルビノ></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業進度で配慮を必要とする児童・生徒を置き去りにして、授業を進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権問題、特に在校する見た目問題当事者の人権課題について学習する機会を設け、児童・生徒・学生、教職員の偏見を無くす取り組みを行う。 本人に必要な対策を理解し、個別対応を認める。 見た目による差別をしないことを学校内で徹底する。 <p><アルビノ></p> <ul style="list-style-type: none"> 本人の理解状況を見ながら、授業進度を調整する。 日焼け対策や十分な休憩時間の確保等、健康上本人に必要な個別対応を認める。 板書以外の教材（プリントや映像等）や機器（タブレットやパット等）を活用しながら、授業を行う等本人に合わせて工夫を行う。
	部落問題	<ul style="list-style-type: none"> 学校内で部落差別落書きを発見して、つらかった。 クラス内で被差別部落への偏見や差別的・否定的な発言があったため、学校に行くことが嫌になった。 親しい友だちに被差別部落出身であることをカミングアウトするかどうか悩んだ。 私が被差別部落に住んでいることを友だちが知ったとき、自分への態度が変わったらどうしようと悩んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 被差別部落への誤解や偏見に基づく差別発言・行為を行うこと。 本人の了承なく被差別部落出身であることを暴露すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒や教員が部落問題について正しく理解するために学習機会を設ける。 部落差別や差別落書きがあった場合は、すぐに学校全体で取り組み、児童・生徒への啓発学習を行う。
学校外	共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 学校の外での活動で、同級生や他校の生徒等からマイノリティに関する差別的な発言や行為がされないか不安だった。 	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティであることを理由に人を傷つけたり差別したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の外での活動でも、マイノリティへの配慮が行き届くようにする。 事前準備としてマイノリティへ配慮すべき事項を考えておく。
	LGBT	<ul style="list-style-type: none"> SNS上で同級生や教員から、性的指向や性自認について、からかいや差別的・否定的な発言があり、しんどかった。 修学旅行等宿泊を伴う学校行事（以下、宿泊行事）で部屋割り、入浴、着替え、トイレ等に困った。 宿泊行事の対応で、「文科省マニュアル（通知）に沿って対応したのだから、これで良いだろう」と言われてしんどかった。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS上含め、あらゆる場面で性的指向や性自認について、からかったり差別的・否定的な発言をしたりすること。 宿泊行事の部屋割りや入浴等で、性自認と戸籍上の性別が異なることを配慮せずに、戸籍上の性別で分けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊行事で1人部屋の使用を認めたり、入浴時間をずらしたりする等本人のニーズに沿える方法を検討し、適切に対応する。 宿泊行事で本人が性自認に基づく部屋割り、入浴等を望んだ場合、文科省マニュアル（通知）より本人の意思を重視し、他の児童・生徒とも丁寧調整しつつ、できるだけ本人の意思に沿うように対応する。
	外国人	<ul style="list-style-type: none"> 両親が難民として来日し、日本で生まれ育ったが、所属国がなくパスポートが作られず、高校生の時に修学旅行に参加できなかった。 公園でもめごとになって「外国人のくせに調子にのんな」と発言された。 青少年施設で、もめごとになって「〇〇（国名）人、もっとちゃんと日本語しゃべれ」と発言された。 民族名に対するからかいや差別発言があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 民族名を茶化したり、もじったりすること。 外国にルーツを持つ児童・生徒に、そのルーツの国に帰れと言うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行が海外の場合、出入国の際に必要な配慮を行う。 外国人等多様性を認める視点で教育を行う。 外国人等多様性を認める市民啓発を行う。（差別と感じたことのひとつに、市民から学校へ連絡があり発覚した事例あり。そういう意味では、大人の気づきが大事なため。）
	HIV陽性者	<ul style="list-style-type: none"> 服薬しているところを見られて、偏見や差別を受けるのではないかと心配だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 服薬やプライバシーの確保について理解しないこと。また服薬するために必要な支援を検討・提供しないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急対応マニュアル等にHIV陽性者への配慮を盛り込む。 宿泊行事で服薬時にプライバシーを確保できる場所を用意する。
	血友病	<ul style="list-style-type: none"> 自分で対処できない際に、修学旅行先で医療機関の確保が必要だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊行事のために必要な医療の相談をしたにもかかわらず、それを無視して実施すること。 注射やプライバシーの確保について理解しないこと。また注射するために必要な支援を検討・提供しないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 学外行事や災害等の緊急対応マニュアルに、治療処置（自己注射等）ができる個室等を確保する旨を盛り込む。
見た目問題	<ul style="list-style-type: none"> 見た目の特徴をさして、悪く言われたり、差別発言をされたりした。 見目で判断されてアルバイト先が決まらなかった。 <p><脱毛症></p> <ul style="list-style-type: none"> ウィッグを着用したままの入浴が難しかったり、就寝中にウィッグが取れないか等の不安があり、修学旅行に行くかどうか悩んだ。 <p><アルビノ></p> <ul style="list-style-type: none"> 「障がいがある分、がんばりなさい」という周りからのプレッシャーをひどく感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 見た目の特徴をさして、マイナスのものとしたり、否定したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊行事等での必要な配慮について、本人と相談しながらなるべく希望に添えるように検討する。 	

場面	人権課題	差別と感じたこと（困ったこと）	差別となる行為	合理的配慮（調整・変更）
	部落問題	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習で被差別部落内の公共施設が出てきて、同級生がどういふ反応をするか不安だった。 同級生が被差別部落を卑下する発言をしたことに対し、何も言い返すことができず悔しかった。 同級生に「部落差別は過去の話だね」と言われて困った。 友だちの家に遊びに行った時に、友だちの親から差別的なことを言われた。 同級生と遊んでいるときに「家はどこ？」と聞かれて、被差別部落に住んでいることを正直に伝えるかどうか迷った。 友だちに「川より向こうは〇〇（被差別部落）やから危ないよ。」と言われて傷ついた。 アルバイト先で被差別部落にルーツのある話題が出てきて、差別発言につながらないかドキドキした。 	<ul style="list-style-type: none"> 被差別部落や出身の児童・生徒のことを否定したり、マイナスのものとして発言したり、排除したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 部落問題について、児童・生徒が正しく理解できるように学習機会を設ける。 差別発言があったときは、すぐに（可能ならその場で）学校全体で取り組み、児童・生徒全員への啓発学習を行う。
保護者関係	共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の会話で、個人的な内容を色々聞かれて困った。 	<ul style="list-style-type: none"> 偏見を持って、興味本位でマイノリティに関する内容を話題にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級懇談会等で全保護者にマイノリティに関する正しい認識と理解を深めるための情報を発信する。 マイノリティについて保護者が正しく理解するための学習会等をPTAと協力して行う。 不要な個人情報に興味本位で詮索しない。
	LGBT	<ul style="list-style-type: none"> 自分の同性パートナーが、幼稚園や保育園の送迎や保護者会への参加を認めてもらえなかった。 幼稚園、保育園で、いつも迎えに来る親の同性パートナーと同じ名字にしたいと子どもが希望しているが、どうしたらよいかわからなくて困った。 ある保護者が、セクシュアリティに関する差別的な言動をしていて傷ついた。 	<ul style="list-style-type: none"> 同性パートナーやトランスジェンダーの保護者を認めず、法律上の家族しか親子と認めないこと。理解しないこと。 保護者がセクシュアルマイノリティという理由で、その保護者の児童・生徒と自分の子どもを遊ばせないようにすること。 児童・生徒の保護者に対して、当事者のSOGIESC※¹²に関する偏見や差別的な言動をすること。 学校が保護者の訴えに対応せず、必要な検討や支援を行わないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が多様な家族の在り方を尊重することを表明する。 児童・生徒間、保護者間、教員と児童・生徒間、教員と保護者間で固定的な家族観による偏見や差別が起きないように教員研修を行う。 児童・生徒のSOGIESCに関わる偏見や差別言動が起らないように、児童・生徒、保護者への学習機会を持つ。 保護者の同性パートナーへの対応は、異性パートナーへの対応と全く同じ対応をする。 本人が自分の名字を戸籍名以外で呼んでほしいと希望した場合は、本人や保護者等関係者と丁寧に協議して、本人の意向に沿って呼ぶようにする。 偏見や差別的言動を受けた保護者から話を聞き、対応を検討し、必要な支援を行う。
	外国人	<ul style="list-style-type: none"> 入園・入学説明会で通訳をお願いしたが対応してくれなかった。 入園・入学時や学校生活で、必要書類や学校行事案内等の内容が理解できなかった。 家庭訪問や三者面談で子どもが通訳をしていて苦痛だった。 PTAで会長等の役職に就きたくても就くことができなかった。 民族名で入学させようか迷った。 	<ul style="list-style-type: none"> 入園・入学説明会で、通訳依頼に対応しないこと。 学校からの書類や案内等を翻訳する等の対応をしないこと。 PTA活動等積極的に参画する外国人保護者に対して、その機会を保障しないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 入園・入学説明会等で通訳者をつける。 入園・入学準備等で必要な書類を翻訳する。 慣習的運用によって、外国人がPTA会長になれない等をチェックし、積極的に参画する機会を保障すること。 多様性を尊重する教育方針を策定し、その方針を保護者や児童・生徒に理解してもらう。（そのことが民族名で通学させようかどうかの迷いの軽減になる。）
	HIV陽性者	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと遊ぶとしたら、友だちの親に「（感染不安により）一緒に遊んじゃダメ」と言われて、遊んでくれなかった。 ある保護者から、児童・生徒やその保護者に対し「病気を持っていないで良かった」と言われた。 保護者同士の関係の中で、「福祉サービスの恩恵を受けているんでしょ」と偏見を言われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が自分の子どもと当事者の児童・生徒を遊ばせないようにすること。 当事者の医療情報を暴露し、プライバシーを侵害すること。 病気、診療や福祉についての偏見や差別的言動を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 差別言動を見過ごさないように人権意識の向上を図るため職員研修を行う。 HIVについて、保護者が正しく理解するための学習会等をPTAと協力して行う。 偏見や差別的言動を受けた保護者の話を聞き、対応を検討し、必要な支援を行う。
	血友病	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと遊ぶとしたら、友だちの親に「一緒に遊んじゃダメ」と言われて、遊んでくれなかった。 ある保護者から、児童・生徒やその保護者に対し「病気を持っていないで良かった」と言われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 血友病であることを理由に、間違った知識から他とは異なる健康診断や検査等を強制的に行うこと。 保護者が自分の子どもと当事者の児童・生徒を遊ばせないようにすること。 当事者の医療情報を暴露し、プライバシーを侵害すること。 病気、診療や福祉についての偏見や差別的な発言をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 差別言動を見過ごさないように人権意識の向上を図るため職員研修を行う。 血友病について、保護者が正しく理解するための学習会等をPTAと協力して行う。 偏見や差別的言動を受けた保護者の話を聞き、対応を検討し、必要な支援を行う。 児童・生徒の学校生活が円滑に進むよう、保護者間の関係は風通しを良くする必要があるので、お互いの不安を払拭するような努力が必要である。
	見た目問題	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が見た目の症状がある人で、授業参観の際に気がつかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 見た目の特徴に対して、その人の背景を理解せずに、一方的に学校のやり方を押し付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 見た目問題について、保護者が正しく理解するための学習会等をPTAと協力して行う。
	部落問題	<ul style="list-style-type: none"> PTAで部落問題を理解する機会の必要性を提案したが、他の保護者から「部落差別はなくなったのに学習する必要はあるのか」といった発言があった。 保護者会で被差別部落への偏見や差別的な発言があって傷ついた。 	<ul style="list-style-type: none"> 部落問題について誤った情報を吹聴したり、差別的な発言をすること。 学習会や研修会で部落問題を扱うことを避けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 部落差別の現状等、部落問題について、保護者が正しく理解するための学習会等をPTAと協力して行う。
卒業・進路	共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 進路先や就職先でマイノリティへの配慮があるかどうか不安だった。 	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティだからという理由で、進路選択の機会を奪うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> マイノリティに関わる進路の壁を、ともに考えていく。 進学時にセンシティブ情報を引き継ぐ場合は、本人や家族の同意を得て、本人の希望を確認しながらサポートする。
	LGBT	<ul style="list-style-type: none"> 進学・就職先が、自分の性自認や性表現に対して理解があるか不安だった。 進路指導担当者から「男（女）にならない」「男（女）らしくしないと」「性的違和を克服しないと」「見た目をもとに戻さないと」、就職先を紹介しない、大学に推薦しない等脅された。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・学生の性自認・性表現を否定した進路指導をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が斡旋する進学・就職先が、生徒・学生の性自認・性表現に十分な対応がなされていないと感じるとき、進路指導担当者は進路先と丁寧に調整する。また、学校はそれをバックアップする。 進路指導担当者は、生徒・学生の性自認・性表現を尊重し、希望の進路先との調整を本人と協議しながら進めていく。学校は、進路指導担当者に対して、常に啓発を行う。
	外国人	<ul style="list-style-type: none"> 外国人を入学させない私立学校があった。 外国人を採用しない会社があった。 卒業前後において本名を変更するかどうか迷った。 本人の意思を確認せずに、善意のつもりで多様性に理解ある会社を紹介された。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人を採用した前例がないことを理由に、生徒・学生の能力や希望とは違う進路選択を勧めること。 「外国人だから」とチャレンジの機会を奪うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・学生の能力や希望する進路への選択を実現するために、国籍や外国ルーツのことを理由とする条項については、その進路先に対して、是正を求めること。 学校が是正を求めることが出来ない場合は、関係機関にすみやかに報告し、進路先に対する是正指導を求めること。
	HIV陽性者	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動時、HIV陽性への理解があるかどうか、HIV陽性が採用に影響するかどうか、健康診断時に強制的に検査されるのではないかと不安があった。 	<ul style="list-style-type: none"> HIV感染症について理解せず、本人が希望する進学先や就労先について進路相談に乗らないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> HIVの感染経路を正しく知り、感染することはないことや進路先に支障がないこと、あえて検査をする必要はないことを認識する。 HIV感染の事実により、合格拒否・採用拒否することは違法となることを認識し、進路先に情報提供する。 本人の同意なく行う検査や個人の医療情報を取得することはプライバシーの侵害となることを認識し、無断・強制検査を行わない。
	血友病	<ul style="list-style-type: none"> 推薦状等に病名を記載されるかもしれないという不安があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 血友病であることを理由に、間違った知識から他とは別の健康診断・検査等を強制的に行うこと。 推薦状等に病名を記載すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の同意なく行う検査や個人の医療情報を取得することはプライバシーの侵害となることを認識し、無断・強制検査を行わない。
見た目問題	<ul style="list-style-type: none"> 「ハンディキャップがあるから」「他と違うから」等の理由で、自分以外の人から生き方や将来を決められ、人として尊重されていないようで傷ついた。 「この障がいがあるなら、この職業に就く方がいい」と決めつけられ、本人の意思より、親や先生の期待が優先された。 <p><アルビノ></p> <ul style="list-style-type: none"> 外資系に勤めてたらいいと善意のつもりで言われた。 「就職活動は黒髪でなければならぬ」という固定観念が伝わった。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望や意思を無視して、本人不在のまま、本人以外が進路を決めてしまうこと。 障がいがあるなら、特定のある職業にしか就けないと決めつけること。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路を考える時は、本人の障がいやハンディがあるということだけに注目せず、本人の意思や特性、能力を見ながら進路をサポートする。 	

場面	人権課題	差別と感じたこと（困ったこと）	差別となる行為	合理的配慮（調整・変更）
	部落問題	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や進路指導担当者に進路先での部落差別の不安等を相談したが、真剣に相談に乗ってくれなかった。 ・進学先で教員や生徒・学生が部落問題を正しく理解しているのか、また教員が正しく教えてくれるのか不安だった。 ・進学先で親しくなった友だちに被差別部落出身であることを打ち明けるかどうか悩んだ。 ・面接時に家族や住んでいる場所について聞かれたので、教員に相談したが「そこには就職しない方がいい」と言われただけだった。 ・就職先で同僚や上司が部落問題を正しく理解しているか不安だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路活動中での差別的な発言・行為を受けたことに対して、学校側が適切に対応しないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人への差別に対する不安を減らすために、サポート体制を持つ。 ・進学先で差別への不安のない生活が送れるように、進路先と連携や調整ができる体制を持つ。

<場面設定>

教育に関わる場面を以下のように分けています。

- ・「受験・入学」…受験や入学に関する場面。
- ・「学校内」…学校の中での教育活動場面。
- ・「学校外」…学校の外での教育活動や学校生活以外での場面。
- ・「保護者関係」…保護者が学校に関わる場面。
- ・「卒業・進路」…卒業や進路に関する場面。

<用語説明>

- ※1 被差別・社会的マイノリティ…社会の関係において弱い立場にあることで、差別を受ける立場にある人や集団。
- ※2 LGBT…Lesbian（レズビアン：同性を好きになる女性）、Gay（ゲイ：同性を好きになる男性）、Bisexual（バイセクシュアル：異性を好きになることもあれば同性を好きになることもある人）、Transgender（トランスジェンダー：心（性自認）と体の性が一致しない人）の頭文字をとった、広く性的マイノリティの立場を含む呼称。
- ※3 トランスジェンダー…心（性自認）と体の性が一致しない人のこと。性同一性障害と診断されている人も含む。
- ※4 Xジェンダー…性自認が女性・男性のいずれでもないという立場をとる人のこと。
- ※5 外国人児童・生徒への就学通知…日本では外国籍者の教育を受ける権利が保障されておらず、行政実務上「外国人は就学義務を負わない」とされており、就学を希望すれば入学を認めるという「恩恵」的取り扱いになっている。
- ※6 HIV陽性者…ヒト免疫不全ウイルス（HIV）に感染した人であって、HIVに対する抗体が陽性である状態。AIDSは後天性免疫不全症候群の略、つまり病態を示している。したがってエイズウイルスとか、HIV=AIDS等は誤用であり使ってはいけない。
- ※7 血友病…出血した血液を固めるために必要なタンパク質が不足して、血が止まりにくい病気。血友病患者は、止血のために必要な血液凝固因子の一つが遺伝的に不足している。不足している凝固因子を含む製剤や、血液凝固の過程に関与する製剤を注射する治療が行われる。患者・家族の多くは、家庭内治療（自己注射）によって処置を行なっている。
- ※8 見た目問題…顔や身体の生まれつきのアザ、事故や病気によるキズ、やけど、脱毛等「見た目」に症状があるがゆえに日々ぶつかる問題。
- ※9 アルビノ…生まれたときから色素がないか、極端に少ない状態の人や動物のこと。
- ※10 性的指向…恋愛や性愛がどの性別に向かうかを表す概念。性的指向が定まらない人や揺れ動く人、あるいは持たない人もいる。
- ※11 性自認…性別に関する自己認識。性自認が定まらない、またはどちらでもない、あるいは決めつけたくないと感じる人もいる。
- ※12 SOGIESC…Sexual Orientation（性的指向）／Gender Identity（性自認）／Gender Expression（服装や言動等の表現したい性のあり方）／Sex Characteristics（身体の状態等の性的特徴）の頭文字を並べた用語。